

評価対象年度	平成 29 年度
1次評価日（課長等）	30年 9月 30日
2次評価日（部長等）	30年 10月 3日

施策評価表

1 施策の概要

施策名	地球環境対策の推進	コード	7-1
この施策の主な内容（細施策）	(1) 地球温暖化の防止 (2) 市民と進める地球環境の保全		
第4次総合計画におけるこの施策の目的	地球温暖化防止やオゾン層の保護など地球環境問題に対する市民意識の高揚を図り、地球環境を考える視点から省エネルギーや新エネルギーの利用など、日常生活や事業活動における可能な取り組みをさらに推進し、地球環境問題に取り組む。		
担当部課	部 市民環境部	課等 市民環境課	作成者 中村良則

●施策の実施内容 (D0)

2 施策指標の達成状況

* 第4次総合計画における目標指標の達成状況（最終年度：30年度）

施策指標名	単位	27年度	28年度	29年度			30年度	31年度
		実績値	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値
① 緑のカーテン参加数	件	690	899	710	1,182	166.5%	720	
指標説明	緑のカーテン事業を通して、市民・事業者などとの協働により、日常の暮らしの中から地球環境の保全に取り組む。							
②						-		
指標説明								
③						-		
指標説明								

3 施策全体にかかる合計コストの推移

* 項目6より「直接事業費」「人件費」の合計を自動表示

単位：千円

	27年度	28年度	29年度	30年度（予算）
直接事業費	3,520	3,255	3,104	5,256
人件費	8,000	8,000	8,000	8,000
合計コスト	11,520	11,255	11,104	13,256

●施策の評価 (CHECK)

4 施策の現状評価

* 29年度に施策の目的がどこまで達成できたか、施策の進行状況に関する順調／不調の判断

地球温暖化などの環境問題は、多くの市民が関心を持っており、環境に対する意識は年々高まっている。この意識の高まりが緑のカーテンという具体的な取り組みにつながっている。取り組み件数は常に目標値を上回り右肩上がりとなっており、28年度においては特に目標値を大幅に上回り市民の環境への意識が継続している。

* 岡谷市の現状のうち、この施策にとって強み／弱みとなる要因

岡谷市の強み	平成18年度に経験した豪雨災害をはじめ、全国で豪雨等による自然災害が発生しているだけでなく、生命の危険を生じるほどの猛暑があり、異常気象、地球温暖化への関心は高い。
岡谷市の弱み	特になし

5 今後の外部環境の変化

* 30年度以降に予測される社会・経済などの環境変化のうち、この施策に具体的に影響する要因

有利に働くもの	北海道地震に伴う停電を受け自然エネルギーへの転換による意識の高まり。
不利に働くもの	特になし

●改善の内容 (ACTION) / 次年度の計画 (PLAN)

6 平成31年度 施策を構成する事務事業の方向性

●基本的な考え方

* 優先して実施する分野＝優先度がA・Bの事業：拡大する事業や新規事業の内容、優先的に実施する理由
 * 見直しを行う分野＝優先度がC・Dの事業：見直しの内容、見直しや廃止をする理由

優先して実施する分野	地球温暖化防止などの地球環境問題は、市民一人ひとりが問題意識を持って取り組むことが重要である。行政はこの問題について市民に周知することにより、市民が意識を高め、環境問題への取り組みを促進するため、環境市民会議おかやとの連携を強化し、環境保全推進事業を推進するとともに、新たな再生可能エネルギーの利用、省エネルギー化についても研究を進める。
見直しを行う分野	特になし

●31年度の優先度

* 方向性が「継続」の事業についてA～Cを、「新規事業」の事業についてAをランク付け。方向性が廃止、完了、統合となっている場合は「-」を付する。 直接事業費・人件費の単位：千円

No	新規事業	様式	実施義務	事務事業名	成果指標		直接事業費		人件費		妥当性	方向性	優先度
					指標名	単位	27年度	27年度	27年度	28年度			
1		一般	なし	環境保全推進事業	環境基本計画推進のための新聞・広報おかや掲載回数	回	12	3,520	8,000	高い	継続して実施	B：現状維持	
2													
3													
4													
5													
6													
7													
8													
9													
10													